

第2章 港北区の特徴と課題

1 港北区の特徴

■ ベッドタウン、商業地域、通勤通学地で人の移動が多い区です

港北区は横浜市の北部に位置し、北側は川崎市に接しており東京方面等のベッドタウンであると同時に、新横浜地区の商業地域や日吉地区の大規模な大学など通勤通学地の側面をあわせもっています。このため、社会移動の転出入による人口増加が特徴的です。

また、区外からの流入流出人口は他の区に比べて多くなっており、就業者については区外からの就業者に比べ区外へ就業する流出人口が多く、通学者については逆に区外からの流入人口のほうが多いことも特徴です。

<課題 1>

転出入者や昼間の流出入口が多いことから、地域での関係性が希薄になりやすい状況にあるため、地域での人と人のつながりやコミュニケーションの機会を保つ取り組みが必要と考えられます。

目標
1

(P 15)

2 人口推移

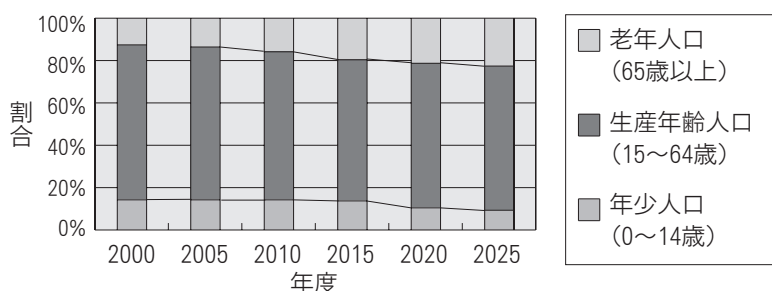
■ 人口は、平成22年をピークに減少傾向に転じます

港北区の人口は平成17年9月30日現在、309,872人で、横浜市18区のうちで唯一30万人を超えている最大の区です。今後は平成22年まで人口は増加しつづけ、これをピークに減少傾向に転じます。(以下統計数値は、平成17年9月30日現在を基準としています。)

■ 横浜市に比べ、生産年齢人口割合は高く、高齢人口割合が低い、若い区です

港北区の年齢3区分別人口比率は、0～14歳の年少人口が13.0%、15～64歳が生産年齢人口が72.5%、65歳以上の高齢者人口が14.5%となっています。(横浜市：年少人口13.6%、生産年齢人口69.8%、高齢者人口16.6%)

図5 港北区人口の移り変わり推計



<課題 2>

区としての若いエネルギーを生かして、中学生・高校生・大学生などの青少年や中高年者が自分の持ち味を生かしながら、地域の中でさまざまな活動の主役として活躍していくことが可能なしくみづくりが必要と考えられます。

目標
4

(P 19)

■ 市内で2番目に少人数世帯化・核家族化が進んでいます

世帯数は140,209世帯と18区中最も多いのですが、一世帯あたりの人員は2.19人と神奈川区の2.11人について少なく、少人数世帯が増えています。

<課題3>

少人数世帯の増加により、家庭や家族だけでは子育て、介護などを行うことが難しくなっています。地域で孤立化することのないよう、日常の人と人のつながりをはじめとし、困った時に助け、助けられる相互関係のある地域づくりの取り組みが必要と考えられます。

目標

- 1 (P15)
- 2 (P17)
- 3 (P18)
- 4 (P19)

3 少子高齢化の状況

■ 1年間に約3,200人の赤ちゃんが生まれています

港北区は、他の区に比べ人口に占める20歳から30歳の年齢層の割合が高く、過去5年間においては、1年間に生まれる子どもの数は、毎年約3,200人で横ばいに推移しています。

港北区の女性の出産年齢は、全国、横浜市に比べ高齢で出産する人が多く、出産前は仕事もち、地域とのつながりが薄く、まわりに子どもをみてもらえる人が少ない傾向があります。また、家庭内の夫婦間のコミュニケーションや父親の育児へのサポート、子育て情報などの面で不安を感じ、育児不安をもつ傾向がみられます。(H14人口動態統計、新米パパを対象にした育児インタビュー、4ヶ月健診アンケート)

■ 中学生以下のこどもの数は約40,000人います

0歳から14歳の年少人口は18区中で2番目に多く40,167人のこどもがいます。

中学生以下のこどもたちに、あいさつなど声をかける港北区の18歳以上の大人は約6割弱です。また、子どもたちが放課後落ち着いて遊べる居場所が少ない状況があります。

<平成16年度港北区暮らしの課題調査より>

中学生以下のこどもへのあいさつなどの声かけをするか聞きました。

1 よく声をかける	24.7%
2 ときどき声をかける	34.7%
3 声をかけることはあまりない	21.3%
4 声をかけることはまったくない	18.0%

学校、家庭以外に中学生・高校生が落ち着いて過ごせる居場所は地域にあるか聞きました。

1 たくさんある	2.3%
2 少しはある	16.9%
3 あまりない	54.9%
4 まったくない	19.7%

＜平成15年度横浜市放課後児童育成事業に関する意識調査より＞
 港北区の小学生の46.5%が放課後にしたいこととして「屋外（そと）で遊びたい」と回答していますが、放課後の居場所は、「近所の公園や広場（区26.3%・市49.6%）」が少なく、「自分の家（区75.6%・市64.3%）」「塾や習いごとの教室（区44.2%・市29.5%）」となっています。また、保護者がはまっこふれあいスクールや学童保育に参加させる理由は、「仕事などで保護者がいないから（区34.8%・市27.9%）」が多いという結果でした。

■ 中学生以下のこどもの数は、13地区でばらつきがみられます

年少人口割合が最も高い地区は樽町地区で15.3%、次いで新羽地区14.9%、城郷地区14.5%となっています。最も低い地区は大曽根地区で11.5%、ついで篠原地区11.7%、菊名地区11.8%となっています。

＜課題4＞

- 乳幼児をもつ家庭への子育てサポートのしくみづくりが必要です。
- 小中高校生を地域の大人が見守り、育てる関係づくりが必要です。
- 小中高校生の放課後の居場所づくりが必要です。
- 仕事をもつ保護者のサポートのしくみづくりが必要です。

目標

- 1 (P15)
- 2 (P17)
- 3 (P18)
- 4 (P19)

■ 高齢化率は低いが、高齢者人口は18区中2番目に多い区です

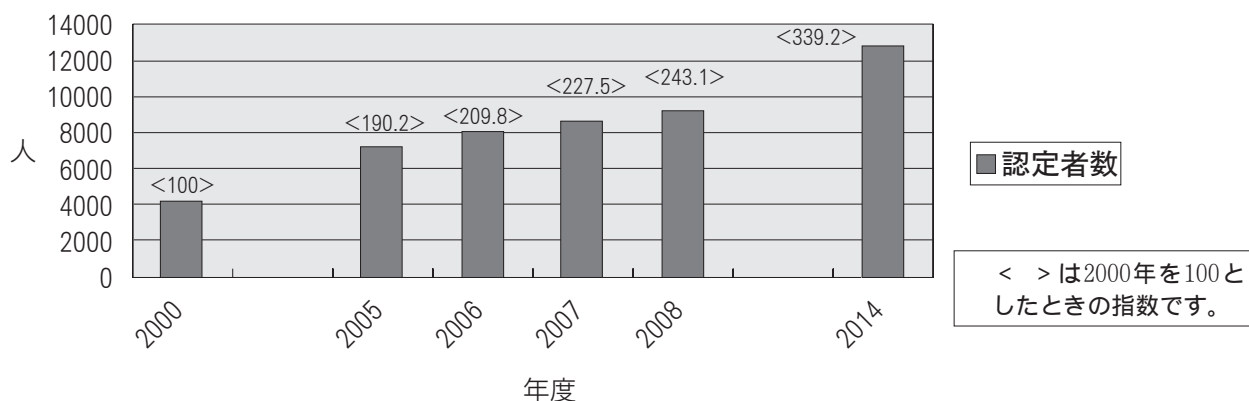
総人口に占める65歳以上の老年人口割合は14.5%で18区中第16位と低いのですが、老年人口は44,957人で旭区について2番目に多く、年々増加傾向にあります。

■ 高齢化の進み具合は、区内の13地区でばらつきがみられます

高齢化率が最も高い地区は大曽根地区で19.6%、最も低い地区は樽町地区で8.9%と地域差がみられます。また、高齢化率が14.0%を越え「高齢社会」とよばれる状態にある地区は、大曽根地区(19.6%)、高田地区(18.2%)、篠原地区(17.7%)、新吉田・新吉田あすなろ地区(16.3%)、日吉地区(14.8%)の5地区となっています。

■ 介護が必要な高齢者は増加しています（福祉局推計データから加工）

図6 介護認定者数の推移

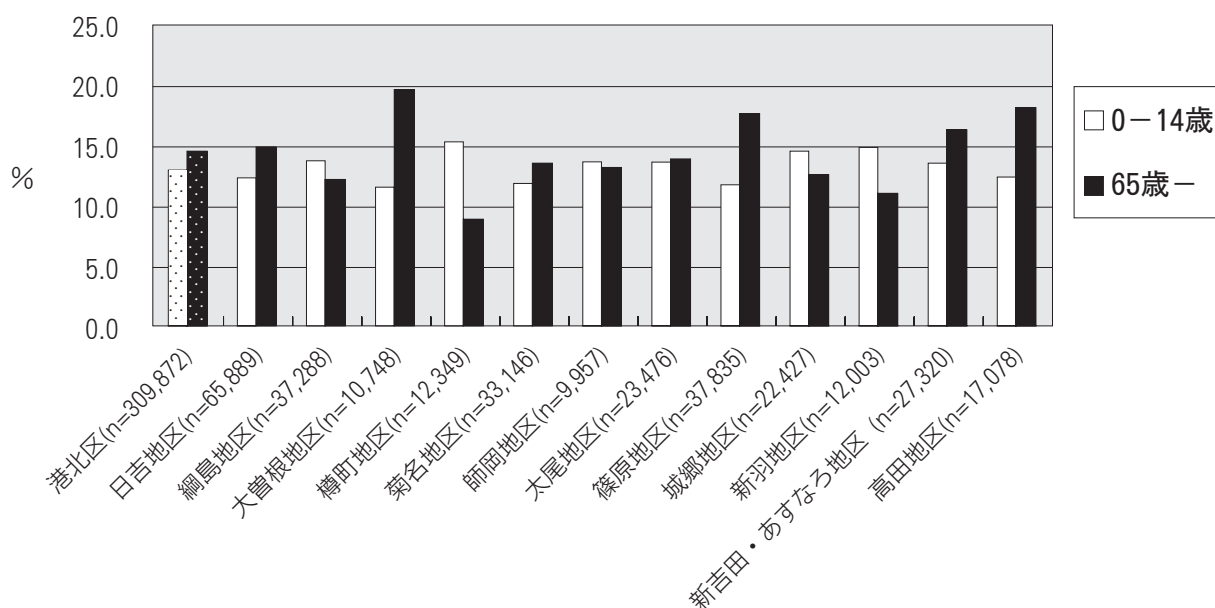


<課題5>

高齢者がいきいきと自立した生活を送れるよう、健康を保持し、要介護状態にならないための介護予防の取り組みを地域ですすめる必要があります。

目標
5
(P21)

図7 若年者・高齢者の割合 (H17.9.30現在)



4 障がい児者の状況

■ 障害者手帳をもっている人は約6,700人です。

その内訳は身体障がい者約5,000人、知的障がい者約900人、精神障がい者約800人となっています。

障がいのある方やその家族は、地域でともに生き、普通に暮らすことを望んでいます。

区内には、障がいのある方の入所施設や障害者地域活動ホームや作業所などの通所施設、生活の場であるグループホームなどが各地域にあります。障がいのある方と障がいのない方との出会いやふれあいは少ない状況にあります。

<平成15年度横浜市障害者プランアンケート調査より>

身体障害のある方に、地域とのつきあいの程度はどのくらいか聞きました。

あいさつをする程度	港北区 58.9%	市 54.3%
時々話をする	港北区 58.9%	市 29.5%
一緒に外出・遊ぶ	港北区 13.2%	市 11.4%
自治会などの地域の活動を一緒にする	港北区 4.7%	市 10.5%
祭りなど地域行事を一緒に楽しむ	港北区 2.3%	市 21.3%
特につきあいはない	港北区 7.0%	市 19.3%

<平成16年度 港北区暮らしの課題調査より>

区民にここ2～3年の間に障がい児者の方とふれあう機会があったか聞きました。

1 たくさんあった	5.5%
2 少しあった	14.7%
3 あまりなかった	16.7%
4 まったくなかった	60.9%

<課題6>

- ・ 障害のある方との出会い、ふれあいの場づくりに取り組むことが必要です。
- ・ 障害者の支援について専門的知識や技術をもっている障がい者施設がそのノウハウを生かして地域づくりに参画できる地域での取り組みが必要です。

目標
1

(P15)